



ムラタが紡ぐもの



創業者 村田 昭

社 是

技術を練磨し
科学的管理を实践し
独自の製品を供給して
文化の発展に貢献し
信用の蓄積につとめ
会社の発展と
協力者の共栄をばかり
これをよろこび
感謝する人びとと
ともに運営する

社是
－社会に貢献する喜びと誇り

創業から10年の1954年、創業者村田昭は、会社の存続の危機を脱して成長・発展していくために村田製作所の方向付けを明確にしなければならないと考え、全従業員の行動の基とする経営の基本理念を確立させました。

社是には、文化の発展に貢献するというムラタのミッションをはじめ、独自のモノづくりを追求する姿勢とそれを支える科学的管理の重要性、信用の大切さや感謝の心など、仕事を通じ体験した昭自身の経営に対する思想が込められています。

私たち村田製作所では、今もすべての従業員がこの社是に込められた想いを大切に共有し、日々の仕事に取り組んでいます。

創業の原点
－独自の製品開発への挑戦

細々と絶縁用碍子（がいし）を焼いて売っていた父に後の創業者村田昭がお客様を広げようと進言した時のこと。温厚な父が激怒して猛反発しました。「注文をもらうには同業者のお客様を奪うことになる。同業者が困るし安くしないと注文はもらえない。まかりならん」と怒った表情が脳裏に焼き付いて離れませんでした。

社是の中に「独自の製品を供給して」という文言があります。単なる価格競争で商売をするのではなく、人のできない独自性のあるもので商売をすること。これは昭の父からの教えと昭自身の体験からの経営理念です。



チタンコンデンサの生産の様子



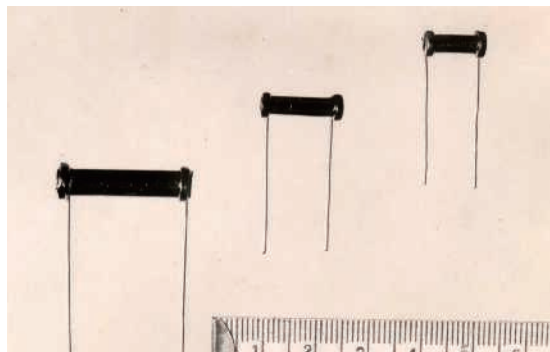
京都市東山区山科日ノ岡の本社と工場（1952年5月）

徹底した科学的管理による経営

創業当時(1944年頃)、見積もりは勘でするのが一般的でしたが、創業者村田昭は作業伝票を作って従業員に品名と工程、作業時間、出来高を書いてもらい、作業員の横に立って、腕時計をみて1個ずつ作業時間を計って、見積もりに必要なデータを集めました。当時、同業者でそのようなことをするところがなかったため、従業員からは良い顔はされませんでした。成型したものを小さい天秤で重さを量ったり、匣（はこ）に何個入り、深さはどんなものを使うのかなどから、焼き賃なども調べたりしました。

社是の中に「科学的管理を実践し」という文言があります。独自性のあるものをつくるためには、科学的に分析して、計算ずくで抜けたところがないようにして、問題をひとつひとつ洗い出して原因を追究し、科学的に仕事を行うこと。これは昭が特殊磁器を手がけ、チタンコンデンサを実用化する苦労の中で学んだ考え方です。

「科学的管理」は、きちんと仕組みをつくって経営していくということでもあります。ムラタでは技術開発や人事、経理、中長期の経営計画まで同じプラットフォームで管理しており、事業部や製品が違ったとしても同じ考え方で動いているのです。



チタンコンデンサ

連綿と受け継がれた社是と
開拓者精神「Innovator in Electronics」

創業者村田昭は1961年に「当社の急速な発展の基として、感謝の念と開拓者精神が幾多の困難を克服してきたのである。」と語っています。また、従業員に向けて「革新ということは開拓である。われわれは常に開拓者精神で積極的に物事を推進しなければならない。そしてその中に会社の基本方針すなわち社是を実践しなければならない。この社是を通すことにこそ当社の存在意義がある。」と語り、社是と開拓者精神の重要性を示しています。

社是と開拓者精神は創業者から連綿と受け継がれ、特に開拓者精神については創業50周年の1994年に2代目社長の村田泰隆が、自分たちはエレクトロニクス産業のイノベーションを先導する存在でありたい、という想いを込めて自分たちのあるべき姿を「Innovator in Electronics」というスローガンに結実させています。社是とスローガンは現在に至るまで我々の基となり、私たちは自分たちのあるべき姿を実現するために情熱を注いできました。

今、私たちは、社会のさまざまな変化と企業の社会的責任に対する世の中の価値観の変化、事業成長にともなうムラタによる社会への影響力の変化によって、これまで以上に社会と調和した事業運営が期待されていることを強く感じています。持続可能な社会の実現のために、環境や人権、健康といったさまざまな社会課題の解決に貢献していくことが必要であり、事業を通じて課題解決に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献することは、私たちの使命です。

創業者から連綿と受け継がれる社是と開拓者精神「Innovator in Electronics」には、事業においてイノベーションを先導するのみならず、環境や社会に対してより良い方向に働きかけ、エレクトロニクスの独創的な発展を通じた価値創造を目指す姿勢が込められています。私たちはこれまでも、社是とスローガンのもと、通信市場・自動車市場などへの独自性のある製品の提供を通じて文化の発展に貢献してきました。これからも私たちは、社会の変化を踏まえた上で、これまで以上に幅広い視野をもって事業運営を行い、徹底した独自性と科学的管理に裏打ちされた事業運営により、文化の発展に貢献していきます。

ムラタが紡ぐもの

連綿と受け継がれた開拓者精神によるムラタの価値創造

自動温度調整の市場創出に貢献
PTCサーミスタ「ポジスタ」

電流制限素子などに用いられるPTCサーミスタは、村田技術研究所(当時)が世界で初めて商品開発に成功した半導体セラミックスです。発売当初は他社製品も存在しないため市場が形成されておらず、検討の末にヒーターと温度センサ、電力コントローラの機能を備えた「自動温度調整装置」として特許出願。1959年から「ポジスタ」の商品名で販売を開始しました。その後、ポジスタの用途開発は進み、電気あんか、電気炊飯器、ふとん乾燥機のほか、ブラウン管カラーテレビの消磁回路用と



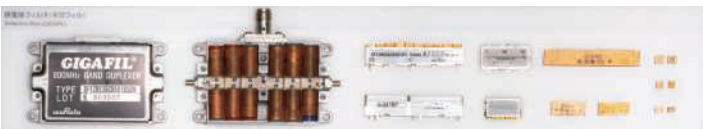
PTCサーミスタ「ポジスタ」

しても採用され、新しい市場を創造していきました。1962年度の日刊工業新聞社「10大発明」のひとつに選ばれた製品です。

小型化で移動体通信の普及に大きく貢献
誘電体フィルタ「ギガフィル」

マイクロ波誘電体材料とその評価技術にフィルタ設計技術を組み合わせて開発された誘電体フィルタ「ギガフィル」は、1979年に国内、1982年にはアメリカの自動車電話に採用され、トランクほどの大きさだった電話機本体を8分の1にするなど、その独自の小型化技術で、移動体通信の普及に大きく貢献しました。

2000年代頃には、一体化により、さらなる小型化と軽量化を実現しました。これらの過程で生まれた基盤技術、生産技術などのノウハウは、ほかの高周波製品・モジュールの開発へも受け継がれていきました。



誘電体フィルタ「ギガフィル」

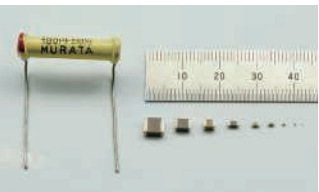
あらゆる電子機器を支えるインフラとして、電子機器の小型化・高機能化に貢献
積層セラミックコンデンサ (MLCC)

積層セラミックコンデンサ (MLCC) は、スマートフォン・自動車をはじめ、日々の暮らしで使う家電製品などあらゆる電子機器を支えるインフラとして電子機器の小型化・高機能化に貢献しています。具体的には、MLCCの小型化と大容量化(高性能化)を同時に推進することにより、電子機器に数多く搭載されるMLCCの搭載面積および搭載点数を最小化し、電子機器の小型化に貢献しています。発売当初からは飛躍的に携帯性が向上した携帯電話やスマートフォンの小型化・軽量化の背景には、超小型積層セラミックコンデンサの活躍があります。

過去から現在に至るまでムラタの成長の原動力であるMLCCの開発は、1963年頃、アメリカ視察後の村田昭の開発指示で始まりました。1970年頃、小型薄型携帯

ラジオに搭載されたことで需要が急増し、材料・製造設備の自社開発、技術革新を通してムラタの主力製品となっていました。以降、9.5×6.3mm、0.68μFから小型化・大容量化を進め、2012年には「0201 (0.25×0.125mm)」サイズの開発に世界で初めて成功しています。

ムラタは、MLCCの原料から完成品までの一貫生産体制とともに、グローバルな販売・供給体制を構築しており、今後も急速に拡大する需要に対応して、エレクトロニクス社会へ貢献し続けます。



創業当初の円筒型コンデンサと積層セラミックコンデンサとのサイズ比較

ムラタのあゆみ

●1944 村田製作所創業

●1950 株式会社村田製作所設立

●1955・56 村田技術研究所を設立・移転

●1962 通信用セラミックフィルタの製品化

●1966 積層セラミックコンデンサの誕生

●1949 チタン酸バリウム磁器コンデンサを日本で初めて量産

●1967 積層セラミックコンデンサの量産体制確立

●1975 マイクロ波用誘電体フィルタ「ギガフィル」誕生

●1977 セラミック発振子「セラロック」の製品化

●1959 半導体セラミックスのPTCサーミスタ誕生

●1981 エリー社買収

●1986頃 チップフェライトビーズの製品化

●1989 多層LCフィルタの製品化

●2000頃 Bluetooth®モジュールの製品化

●2004 0402(0.4×0.2mm)サイズの積層セラミックコンデンサの開発

●2005 MEMSジャイロセンサの製品化

●2017 ソニーエナジー・デバイスの電池事業買収

●2016 東光の完全子会社化

●2012 0201(0.25×0.125mm)サイズの積層セラミックコンデンサの開発

■ 売上高
● 期末従業員数
※連結ベース

1944 1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010 2020 (年度)

1940年代

社会の出来事

・ラジオの民間放送開始

1950年代

・白黒テレビ普及
・電信電話の市場が拡大

1960年代

・カラーテレビ放送開始

1970～1980年代

・情報のパーソナル化
・ポータブル化の進展

1990～2000年代

・インターネット時代の到来

2010年代

・SNSやメッセージアプリの普及

2020年代

・5Gの登場、通信技術の進展
・CASE、モビリティ社会の到来

求められた電子機器

・スーパーヘテロダインラジオ

・トランジスタラジオ

・カラーテレビ

・自動車電話
・ヘッドフォンステレオ
・CD

・携帯電話(小型化)
・PC

・スマートフォン
・自動車の電装化

・ウェアラブルデバイス
・EV、自動運転対応車
・ドローン、ロボット

電子機器の進化に寄与したムラタの電子部品

・温度補償用コンデンサ

・セラミックフィルタ

・PTCサーミスタ「ポジスタ」

・ギガフィル
・チップフェライトビーズ(EMI除去フィルタ)

・Bluetooth®モジュール
・スイッチブレクサ

・積層セラミックコンデンサ
・表面波フィルタ

・メトロサーク
・MEMS慣性力センサ
・全固体電池